



私も京都外大図書館を応援します(4)
「図書館前に、樹木やシダがあるのは最高の環境」

とり い かず やす
 鳥居 万恭さん



鳥居さんには、本学図書館の「データベース・ノーベル文学賞」作成にご支援をいただき、北欧言語で書かれたノーベル賞受賞作家の作品を約 100 年前にまで遡って、納品していただいていた。それらは日本では入手しにくい資料で、この点でのご苦勞を氏に感謝したところ、「入手できずに困っておられる洋書を、たとえ長い時間がかかっても探してお届けしたときには、とても喜んでいただけます。その時が、本屋としての冥利に尽きる時です。ノーベル賞作品も同じです」と謙遜される。

また、「最近メールが発達して、外国の本屋との取引が随分速くなりました。30分から40分で一定の結論がでます」ともいわれる。全国の大学図書館にない「データベース・ノーベル文学賞」の企画に共鳴して、この業界に入り37年のベテランが、部下に任せず自分でインターネットを使って海外の書店で本を探しておられるそうである。

本学図書館と氏の書店との付き合いは長く、「京都外大と世界の貴重書の関係を知ったのは入社して直ぐ」とのこと。それ以来、本学図書館が開催する稀観書展示会やこれに関わる講演会には毎回足を運んでいただき、その思い出を相好をくずして語られる。

話が古いですよと冷やかすと、「(真顔に戻られ) 実は、京都外大と私の付き合いはもっと古いのです」。氏の父上と兄上が映画関係の仕事で太秦界隈に住んでおられたようで、「梅津段町や山ノ内、蚕の社は子供の頃の遊び場で懐かしい所です。その頃、外大の近辺は畑ばかりで、美しい西山連山の緑もはつきり見えました」。この幼少時代のお気持ちを大切にされ、現在のご自宅も洛西に決められたそうだ。

数年前、ご自身が編集に関わられた『京都西山周辺の植物目録』(乙訓の自然を守る会)を本学図書館へ寄贈していただいた。最近では、長岡京市の「西山森林整備推進協議会」のワーキンググループの一員としても活躍中で、根っからの「自然派」である。氏に何年も前から伺ってきたことだが、「この図書館の西側の庭に、ホシシダ(シダ類)が群生していますよ」とのことである。今回も、「図書館の前に、樹木やシダがあるのは最高の環境ですよ。どうか大切になさってください」と「静かの庭」を誉めていただいた。

「国と言葉の壁を越えて人々を結びつける世界文学」として評価されているノーベル賞文学に対する氏のご理解と、子供の頃から大切にされてこられた植物を愛する優しいお人柄に深く敬意を表したい。

.....
 ナウカ株式会社京都営業所所長。趣味は「耳学問」と謙遜されるロシア語のほか、秘湯・隠れ湯を巡る温泉学。映画鑑賞。さらに、大阪の書肆研究など幅広い。

(文・奥 正敬)